

映画研究

教授 渡辺徳美

1. 研究内容

映画は多彩な映画技法（語り、構図、カメラワーク、ビジュアル・デザイン、編集、サウンドなど）によって制作されています。本演習室では、主に欧米の映画を研究対象とし、作品がどのような技法や形式によって何を表現しているか、どんなメッセージを観客に伝えているかを探ります。もちろん、映画のテーマやストーリー、登場人物について、つまり人間について検討することも重視しています。

2. ゼミの進め方

《2年次》 春学期：さまざまな映画を教材にしながら、「シネマ・リテラシー（映画の技法や話を理解するための知識）」を学んでいきます。学期末にはまとめとして、グループごとに世界的な映画祭の受賞作品を分析し習得度を確認します。

秋学期：小説や戯曲などの文学が映画化された作品、つまり原作のある映画を扱います。映画を原作と比較することで、映画をより深く味わうことができます。

《3年次》 春学期：オリジナル脚本による映画の研究に取り組みます。多彩な映画技法を綿密に分析することによって、監督の意図とメッセージを読み取ります。

秋学期：20世紀の戦争やテロを扱った映画を研究します。映画の背景となっている歴史や社会問題を文献によっても調査し、作品をより深く理解しましょう。

* 2年次秋学期と3年次の春・秋学期のゼミは、個人研究の口頭発表とディスカッションによって進めます。映画好きの皆さんにとって毎週のゼミは、一作品を多方面から考察する有意義な時間となるでしょう。さらに論文としてまとめ、文章表現力も養います。

《4年次》 卒業論文の作成：3年間の映画研究の集大成として映画に関する卒論を執筆します。

春学期：ドキュメンタリーやドラマを鑑賞し、世界の諸問題や文化・芸術について学びます。

秋学期：各自が卒論で取り上げる映画をゼミにおいても検討します。

* 文化的行事：学期ごとにゼミで映画や展覧会を見に行きます。合宿は予定していません。

3. 教材

・マイケル・ライアン/メリッサ・レノス『Film Analysis 映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2014年

・北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義：夢の工場から夢の王国へ』平凡社、2017年

4. 成績評価の方法

口頭発表とそれをまとめた論文、日頃の取り組み、ゼミへの参加度などによって評価します。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

- ・映画鑑賞と読書が好きの人、意欲的に取り組む人、いろいろなことを吸収したい人を歓迎します。
- ・3年間を通じて、社会で通用するコミュニケーション能力を身につけることも重視しています。